

2026子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う」 趣意書

近年子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因であることが周知され、検診によって予防できるがんと言われています。しかし、日本では子宮頸がん検診受診率は他の先進諸国に比べて約44%と極めて低率です。特にこれから子どもを産む若い世代（20～30歳代）に子宮頸がんが急増しているにもかかわらず、その検診受診率が20代では約26%と低いこと、またHPVワクチンの接種率（無料接種）も依然と低いままであるということは深刻な問題です。

私たち実行委員会のがん細胞を発見する第一線の現場で働く細胞検査士を中心に組織されています。一人でも子宮頸がんで苦しむ人を減らしたいという思いから賛同してくださる団体や個人の方々と協力して2011年より子宮頸がん予防啓発活動を行ってきました。

厚労省の通達により2022年の4月から子宮頸がんワクチンの対象者（12歳から16歳になる年度中の女子）に対しての積極的勧奨が再開されました。また積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃してしまった年代に対してのキャッチアップ接種（無料接種）も行われました。しかし対象者や保護者に詳しい情報がなかなか届かず不安な方や判断に迷う方も多いと思います。

2025年7月の厚労省データによると定期接種対象者の最終学年累積初回接種率は約55%と増加傾向にありますが定期接種と認められたころの接種率には及びません。今こそ子宮頸がんやHPVワクチンについての正しい知識や情報を届け子宮頸がんを無くすためにも、私たちの活動は益々重要性が高まったと考えています。それにより子宮頸がんで苦しむ若い女性が一人でも少なくなるよう年間を通じて活動していきたいと思います。

どうかこの活動内容をご理解いただき、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和8年2月吉日

子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う」実行委員会
実行委員長 中村恵美子

【お問い合わせ先】

愛は子宮を救う 実行委員長
中村恵美子

TEL：090-2720-6960

E-mail：e_hanamame@yahoo.co.jp